

科目名	社会的養護Ⅰ		担当教員	古川 健次	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2CSR313
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	施設運営者				
実務経験を生かした授業内容	乳児院、児童養護施設等の最新の動向を踏まえて講義する。				
到達目標及びテーマ	養護問題の発生と現代家庭の現状を理解する。児童福祉施設の役割と援助の実際を理解する。社会的養護の原理と原則を理解する。児童福祉施設で働く保育士としての役割や技術を学ぶ。				
授業の概要	児童福祉施設の子どもの事例を活用して子どもの理解を深めるとともに、社会的養護の果たしている役割を理解する。ビデオ等の映像も利用して理解を深める。児童福祉施設各論について概説し、社会的養護の原理がどのように現場に生かされているかを概説する。そして、児童福祉施設の子どもの生活と保育士の仕事と役割を理解する。				

授業計画	
第1回	子育て家庭の現状と社会的養護
第2回	児童福祉施設の現状と課題 要保護児童対策 家庭支援 児童家庭支援センター 専門援助機関としての連携
第3回	児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設
第4回	障害児入所施設、児童発達支援センター
第5回	児童自立支援施設、児童心理治療施設
第6回	里親の現状、自立援助ホーム
第7回	社会的養護の歴史
第8回	社会的養護の基本理念、子どもの最善の利益
第9回	社会的養護の原理・原則
第10回	施設養護とホスピタリズム、新しい社会的養育ビジョン
第11回	施設養護の体系と運営
第12回	施設職員の専門性
第13回	施設職員の働き方とチームワーク
第14回	子どもの権利擁護、意見表明と施設の生活、第三者評価と施設の改善
第15回	まとめ 社会的養護の課題と私たちの役割

事前学修	2時間	現代の子どもを取り巻く養護環境に関心を持ち、児童養護問題（児童虐待など）の日々の報道に注意を払っていただきたい。子育て家庭の支援(社会的養護)の問題点を考える。
事後学修	2時間	社会的養護を国・県・市町が責任を持つ意味を知って、社会的養護(施設養護・家庭養護)における施設保育士の実践現場や施設児童との交流の機会に積極的に参加を望む。
フィードバックの方法	レポートを授業内に返却し、個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	40%	社会的養護が正しく理解されているか評価する。
レポート	40%	レポート提出により評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	総合的に受講態度により評価する。
補足事項	評価基準等 定期試験 社会的養護（施設養護・家庭養護）が正しく理解されているか、地域の福祉力の向上をめざす養護実践の大切さを理解し	

ているか評価する。
レポート 社会的事象に関心を持ち、新聞記事・インターネット等の報道分析をレポート提出により評価する。

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的養護	成清美治 真鍋頭久（編著）	学文社	9784-7620-2976-9	なし

参考資料 実践から学ぶ社会的養護――児童養護の原理――中山正雄編著 保育出版社

科目名	社会的養護 II		担当教員	古川 健次	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	施設運営者				
実務経験を生かした授業内容	施設現場での経験を活かし、グループワークにより、演習を中心に講義する。				
到達目標及びテーマ	児童福祉の実践者として、第一線で働く保育士に求められる子育て家庭支援のあり方について理解する。子どもと一緒に成長する喜びを感じられる保育士としての心を育む。				
授業の概要	グループワークの実際を体験し、演習を中心に講義を進める。(社会的養護におけるソーシャルワークの実務・援助方法を学ぶ)				

授業計画	
第1回	子どもを受け入れる。
第2回	子どもへのかかわり
第3回	生活のルールと子どもの意見の尊重
第4回	子どもの行動への対応 1
第5回	子どもへの対応 2
第6回	子どもへの治療的ケア
第7回	子どものグループと担当居室の運営
第8回	施設の行事と集団生活
第9回	リビングケアと自立支援
第10回	親子再統合への取り組み 1
第11回	親子再統合への取り組み 2
第12回	アフターケア
第13回	職員のチームワークと働き方
第14回	職場の運営
第15回	まとめ 職場内研修と不適切対応の防止

事前学修		社会的養護の家庭養護（養育家庭）と施設養護のそれぞれの実践を理解する。施設養護で子ども同士が育ち合い、学びあって成長する実践事例を通して社会福祉援助技術（ケースワーク・グループワーク）に関心を持ちたい。
事後学修		実践事例の紹介と施設実習等の経験を元に、援助技術の研鑽に励む。
フィードバックの方法		レポートを授業内に返却し、個別にコメントするほか、総合評価を説明する。

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	40%	定期試験により評価
レポート	40%	レポート提出により評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	総合的に受講態度により評価する。

補足事項	<p>評価基準等</p> <p>定期試験 施設の子どもの問題行動とその対応のあり方を正しく理解しているか評価する。</p> <p>レポート 地域の中で子どもは育つ、地域が子育て家庭の支援に関心を持つ大切さを理解し、報道など社会事象から分析し、多様な考えがあることを知り、レポートする。それにより評価する。</p>
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	実践から学ぶ社会的養護の内容 中山正雄編著 保育出版社			